

評価シート 様式

取組名	ユニバーサルツーリズム事業の振興と障がい当事者の一般就労機会の創出による地域活性化プロジェクト		
実施団体名	NPO法人ウィズアス	対象地域	兵庫県神戸市
(代表団体名)		推薦団体名	神戸市
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。 (備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。 (備考・特記事項)
		② 実施 体制	④ 継続 展開 の見 込み

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	ユニバーサルツーリズム事業の振興と障がい当事者の一般就労機会の創出による地域活性化プロジェクト		
実施団体名	NPO法人ウィズアス	対象地域	兵庫県神戸市
(代表団体名)		推薦団体名	神戸市

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○ 複合性 単なる障がい者支援・観光支援にとどまらず、地元大学等のカリキュラムとして実施する方向性が確認できるなど、持続性ともった複合的な取組であるといえる。
	○ 先導性・モデル性 民間が地域の観光資源の魅力向上と新たな(障がい者)雇用モデルを構築し開発したツアーや障害者をサポートする車いす事業などにより障害者の自立的な活動を実施している点で先導性・モデル性が確認できた。
	○ 相乗効果・波及効果 モニターツアー商品検証等により、問題点の把握だけでなく、潜在的ニーズの掘り起こしによる相乗効果が確認できた。また、障がい者にとって使いやすいシステムや環境は、高齢者・子どもにとっても快適な環境であり、これらの改善の必要性につながっていく波及効果にも今後つながっていくと考えられる。
	○ 評価
<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。	
<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。	
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)	
本取組は、民間が地域の観光資源の魅力向上と新たな(障がい者)雇用モデルを構築させるという点で地域活性化に寄与する取組であると評価でき、今後、開発したツアーの採算性や障害者をサポートする車いす事業などの自律モデルを検証し、自治体との役割分担・連携などに留意しつつ、地方の元気再生事業を継続することにより本格展開に向けて継続的な展開が期待できるものである。	
次年度以降の取組については、行政との連携や寄付等による部分と、広告システムの導入による自律的な収益源の確保のバランスに配慮しつつ、UT事業の本格的な事業展開に向けた取組を重点的に実施すべきである。 具体的には、①人材育成については、研修会の意義を高める資格認証制度の検証と地域の大学と連携したカリキュラム開発・講座を実施すべきである。②地域ネットワークづくりについては、事業を支える関係者の体制づくりを着実に推進する必要がある。③本格的UT事業の展開については、「どこでも車いす事業」を実施し、今後の財源確保策を検証すべきである。⑤ユニバーサルツーリズムコンベンションについては、その意義は重要であり独自の実施を否定するものではないが、本事業に於いては軌道に乗りつつある本格事業化に向けた活動に集中し、コンベンション実施はその後検討すべきと考えられる。	